**三ッ谷　平治 （みつや・へいじ）**

**１、プロフィール**

昭和10年、八木沼丈夫が主宰する「満州短歌」に入会。県文化振興会議常任委員、東奥日報社主催県短歌大会選者、群緑短歌会選者、県歌人懇話会会長として本県文化向上に尽力。

＜生没＞

1917（大正６）年５月10日 ～ 2001(平成13）年12月12日

＜代表作＞

歌集『鵲抄』『雪解けの街』『岬に立ちて』『北京の壺』『漂泛ありて』『昭和残照』

＜青森との関わり＞

西津軽郡鯵ヶ沢町に生まれる。

**２、作家解説**

昭和10年「満州短歌」に入会、八木沼丈夫に師事する。昭和34年、潮汐短歌会に入会して鹿児島寿蔵に師事、青森県支部長に就任して以来、鹿児島亡きあと「求青」「群緑」の運営委員及び選者を担当。ラジオ青森短歌教室選者。東奥日報社主催青森県短歌大会選者。県内13地区における県下短歌大会の選者。毎年発行する『青森県歌集』の編集と校正を担当。青森県文化振興会議の創設に参画、理事、監査委員、常任委員。日本歌人クラブ青森県委員。日本歌人クラブ主催東北短歌大会選者。現代歌人協会会員。宮中歌会始め、陪聴者。産経新聞東北版歌壇選者。青森県歌人懇話会会長。平泉町毛越寺における「曲水の宴」に歌人として参宴など、本県並びに中央歌壇の隆盛、発展に貢献した。

青森県歌人賞（昭和40年）､潮汐賞（昭和43年）､潮汐大賞（昭和48年）､現代歌人協会賞（昭和53年）､青森県芸術文化報奨（昭和56年、潮汐会青森支部）､青森市民表彰（昭和63年）、青森市文化功労賞（昭和63年）、青森県文化振興会議会長表彰（平成元年）､鯵ヶ沢町町制施行100周年功労賞（平成２年）､青森県文化賞（平成４年）､　勲五等瑞宝章（日本塗装工業会理事等の建設業功績）受章。

代表作

院子の楡にひとこゑ啼きしのみ鵲は飛びて空に光れり

まがなしく漂泛ありてゆく水にまだ青き葉の柳散り落つ

群星を離れわたりて満月は中天に在り青く孤独に

**３、資料紹介**

〇『漂泛ありて』

図書

1991（平成３）年５月10日

210mm×148mm

昭和55年から59年までの歌523首を収める｡鹿児島寿蔵逝去の年を中心に､「潮汐」廃刊「求青」発刊､「求青」の「群緑」改題など編集人、選者である著者の「糸の切れた凧のようにたどきなく､北満で体験した白夜の日々のようであった」世界が詠われている。